

## マクロ経済とミクロ経済前編 (資産形成コラム)

マクロとミクロと聞くと、単なる大きさを表す言葉としてしかイメージが沸かない方が多いと思いますが、実はそれで十分なんです。マクロとは「巨大であること、巨視的であること」であり、ミクロとは「極小であること、微視的であること」と言った意味です。つまり、マクロ経済とは経済を大きな単位で見る方法であり、ミクロはその反対になります。具体的には、マクロ経済とは一国・地域全体の経済活動のことで、政府・企業・家計を総体として捉える経済の見方であり、GDP や消費者物価指数、日銀短観、失業率、新築着工件数などの指標を参考にします。一方、ミクロ経済は家計（個人）や企業を最小単位として行動の意思決定がどのようになされるかを扱います。なんとなく浅はかな私は、ミクロ経済よりマクロ経済の方が大きな単位なので、難しそうといった印象や、ミクロ経済の方が身近な印象をなんとなく持ってしまうのですが、どちらもとんでもなく難しく、経済学自体は身近であることは間違いのないのですが、簡単に論じられるものではないことは理解出来ました。そんな中、適切かどうかは正直不確かですが、敢えて私なりにこの2つを喩えるならば『具体と抽象』『微

分と積分』と言ったイメージになると思います。具体と微分がミクロ経済で我々の身近な経済活動における消費者心理や行動原理になり、抽象と積分がマクロ経済で我々の実感からは離れているものの、とても重要で多くの要素を積み上げた結果であり、大きなものを扱っているといったイメージです。

さて、なぜこの資産形成コラムでマクロ経済とミクロ経済についてお話ししているかというと、それはひとえにマクロ的な視点である株価指数や為替指数のようなコントロール出来ない要素に我々は資産を預け、運用を行います。一方、ミクロ経済の考え方、個々人がコントロール可能な範囲で我々は日々経済活動を行っています。つまり、コントロール可能なものと不可能なものをまずはしっかりと理解し、コントロール可能なことに集中することが安定的に資産をふやしていくポイントになると考えます。テレビやネット動画でも、将来のマクロ経済を予測するかなのようなコメンテーターは多くいます。しかし、先程もお伝えしたようにマクロ経済をコントロール出来る人物は限りなく少数で、その本人は自分自身が発言することの影響力がどれ程のものかも分かっているため、公の場ではコメントはしないというのが常識です。そんなことより、コントロール可能な消費者心

理に目を向け、一例を挙げると、昨今地震や大雨と言った自然災害が多く発生します。そんな時に我先にと食料品や日用品を買いだめしたくなりますが、一人一人が冷静に行動することで、食品不足からくる値段の高騰（需要と供給のバランスによる企業の行動）を避けられますし、高騰している食品以外でも災害時に役立つ通常価格の食品を見つける行動や、そもそも日頃からローリングストックとして備蓄しておくことで、一時的に高騰し不足している品に右往左往しなくて済むといった考え方をしていくことが出来ます。コントロールできる経済活動から生み出した余裕資金を、コントロール不可能な市場経済に移し替えることで、我々は経済（世界経済）の恩恵を受けることが出来るといった事実も大切な考え方になります。

その具体例をお伝えする前に、日本の社会保障制度の一つ、公的年金制度に平成 16 年の制度改正で導入されたマクロ経済スライドについて、実際に年金を受け取られている方も多くいると思いますし、年金制度ほど誤解の多い国の制度もないと思いますので、少し触れたいと思います。

 マクロ経済スライドとは、もともと公的年金を将来にわたり維持するための制度です。世間一般の物価や賃金が上昇した場合に年金受給者の収

入にあたる年金額も上がる仕組みに加えて、先程述べたように将来にわたり年金制度を維持するために調整する仕組みになります。調整するとは、端的に言うと抑制するということです。年金額をマイナスに調整すると言った方がより分かりやすいかも知れませんが、このように表現すると、年金額がドンドン、マイナスに調整され極端な話、いずれ年金なんて貰えなくなるといった印象を持ってしまうかもしれませんが、そもそも先程お伝えしたように年金制度を将来にわたり維持するための仕組みなので、マクロ経済スライドが原因で年金がなくなることはありません。全く逆です。

もう少しだけ詳しく見ていくと、マクロ経済スライドは世間一般の物価や賃金が上昇し、それに伴い年金額が増加した時にしか発動されません。2004年に出来たこの制度以降、実際には2015年、19年、20年、23年の過去には4度しか発動されていません。この間の日本のマクロ経済は順調でデフレからインフレへ向かい、物価は上昇し、それに伴い賃金も上昇しました。これはあくまでマクロ経済の話ですので、国全体の話になるので、いやいや昔と比べて食料品や車やお酒やたばこといった嗜好品の値段は上がったけど、衣料品や電化製品や外食なんかは安くなってるんじゃないとか、給料は勤続年数による定期昇給は僅かにあるけど、何年もほと

んど変わってないと実感を持たれている方もおられると思います。しかし、マクロ経済の観点で見れば、国全体では経済は成長しており、世界経済はさらに成長していたということが事実です。これが、最後にお伝えする資産形成のポイントになります。その前に、公的年金の話に戻して、2023年はマクロ経済スライドが発動し、世間一般の物価上昇や賃金の上昇により、公的年金の年金額が上昇しました。2023年度厚生年金のモデル世帯では賃金・物価上昇に伴い月々約6,000円年金額が上昇しました。そこからマクロ経済スライドにより約1,200円を抑制し、実際は約4,800円程年金額が増えました。年金はどんどん減っていく一方だと思われる方が多いと思いますが、去年は年金は増えたが事実です。(実際には年金受給額から源泉される公的介護保険料や公的医療保険料が上がっているため、それ程年金額が増えている実感は少ないのが実際です。)

と、それなりに長くなってしまいましたので、今回はマクロとミクロについて何となく理解していただき、次回はマクロとミクロの考え方を使い安定した資産形成の方法についてお伝えしたいと思います。 後編に続く

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟